

第 21 回山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演 題	基礎生活レクリエーションを中心とした環境整備によって得られた結果
副 題	より良い施設生活を目指して

フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツ ナックユムラ
施 設 名	介護老人保健施設 NAC 湯村
フリガナ	カイゴフクシシ ヤスモト ヒロシ
発表者(職名・氏名)	介護福祉士 安本 博
フリガナ	チノ サトミ イシダ ユミコ
共同研究者	千野 さとみ 石田 弓子

【目的】

多忙な業務や人材不足など、ご利用者と接する時間や機会が減っている現状の中で、職員のマンパワーの変動に関わらず、少しでも多く楽しみを提供したい、より良い施設生活を提供したいと考え「基礎生活レクリエーション」に着目し実践した結果をここに報告する。

【方法】

対象者 一般棟 入所者 30 名

対象者にアンケートを行い、食事や入浴、空き時間の過ごし方や職員の対応など、どのように感じているかを聞き取りし、現状やニーズの確認、提供する内容を検討する。

- ① 共有スペースの目立つ場所に入所者の作品を飾る。
- ② 入浴時、脱衣所に音楽を流す。
- ③ 食事の時間に音楽を流す。
- ④ 回廊全体に年間を通した行事写真を展示する。
- ⑤ これまでにあった雑誌のコーナーに、図書のコーナーも追加する。
- ⑥ 手芸が楽しめるコーナーを設置する。
対象者の様子、利用状況を観察し再度アンケートを行い満足度を調査する。

【結果】

- ① 毛糸の編み物、色紙で作成した人形の 2 作品を展示。作品を前にして、ご本人やそのご家族、入所者様同士、また職員とも笑顔で会話されていた。今は繕いものもしたいなと嬉しそうに話されている姿が印象的でした。
- ② 歌謡曲や、童謡を脱衣所で流しました。入浴前に待つ時間が嫌だったけれども、楽しくなったよありがとうとの声あり。
入浴が嫌いで大声を上げることが多く、落ち着きなく動くために、転倒や外傷する危険性があった方が歌を口ずさみながら穏やかに過ごされ

る姿も。

心なしか動きが軽くなっている職員もいた。

- ③ 食堂の TV が設置されていない側のスペースで実施するが、TV の音が聞こえないとクレームあり。そのため昼食半ば頃より昔の歌謡曲の録画番組を流す案に変更すると、お昼休みまで楽しめる小グループが成立し、なじみのメンバーで毎日楽しまれている。また居室にこもりがちであった方が近くで聴きたいと、30 分程、食後に楽しまれている様子もみられました。
- ④ 写真を見ながら、入所者同士やご家族と一緒に、職員と一緒に会話されている様子あり。
ご家族様からも、母が参加しているところや、行事の様子を一緒に見られて良いですねと喜ばれることもありました。
- ⑤ 図書のコーナーでは、エッセイや漫画、花や動物の図鑑を自由に利用されていた。雑誌だけでは利用されていなかった方が図書を手に取っていただけて生活の幅の広がりになりました。
- ⑥ 靴下の端切れを組み合わせる手芸を用意したが、対象者だけでは作り上げる事が難しく、職員が一緒に行う必要があり、今回の取り組みとしては中止とした。

アンケートでは、食事のクレーム以外はそれぞれに良いという意見をいただくことができた。

【まとめ】

中止となったもの、内容を変更するものもありましたが、楽しみを提供することができました。そして皆様の笑顔で職員のモチベーションが上がること、アンケートを通じてご利用者の思いを職員が共有できることなども得ることができました。まだまだできること、課題もありますが、より良くしていくという気持ちを大切に取り組んでまいります。